



# 羅針盤

豊中市立第五中学校  
2021年度 第68期生  
進路指導委員会発行  
10月22日 第41号

修学旅行代替行事、体育大会と立て続けに行事を終え、「あ～、疲れた。でも、気持ちイイ！」っていう人もいるかもしれませんね。一方で、冷静に考えると、いよいよ自分の進路について正面から向き合って考えなければいけない時期が来たということでもあります。まずは、今後の進路決定までの予定について見てみましょう。詳しくは10月28日(木)に担任の先生から説明があります。

### ☆今後のテストと懇談、そして進路決定に関する日程です。

11/2	第3回実力テスト
11/15～18	三者懇談 ○私立高校と公立高校の受験校の方向性をおおまかに決めます。
11/19～26	第4回進路希望調査 ○直前の三者懇談の内容をふまえ、記入します。
11/24～26	2学期末テスト
12/14	進路指導委員会 ○先生たちで68期生全員を対象に一人ずつ進路について検討する大切な会議です。
12/17～22	三者懇談 ○私立高校・公立特別選抜の受験校を決めます。 ○公立一般選抜についても方向性をほぼ決めます。
冬休み中	○公立高校入試自己申告書の下書き完成 ○Web願書作成の私立高校 →入力を済まし「確認書」を1/11始業式後に担任の先生へ提出 ○紙願書の私立高校 →願書を受領し、何も書かずに1/11始業式後に担任の先生へ提出
1/13	第4回実力テスト
1/13～1/20	私立高校願書作成
1/24～25	学年末テスト
1/25	私立高校一斉出願
1/27・28	模擬面接
2/1～2/8	第5回進路希望調査 ○12月の懇談内容をふまえ、記入します。
2/10・11	私立高校入試
2/14	公立特別選抜一斉出願
2/17・18	公立特別選抜入試
2/17	進路指導委員会 ○先生たちで公立一般選抜を受験する人を中心に一人ずつの進路について検討する大切な会議です。
2/18～2/24	三者懇談 ○公立高校一般選抜の受験校を決めます。
3/2	公立一般選抜一斉出願
3/9	公立一般選抜入試

3/15	卒業式
3/17	公立一般選抜入試合格者発表

さて、突然ですが、問題です。みなさんは次の問題に○×で正確に答えられますか？どの問題も、これから受験を控えるみなさんにとっては常識であるべき問題です。

第1問 私立高校には、建学の趣旨などで校風に特徴がありますが、どの公立高校も、校風に違いはない。 ○か×か？

第2問 私立高校には、共学校、男子校、女子校がありますが、大阪の公立高校には、男子校と女子校はない。 ○か×か？

第3問 授業料無償化制度がありますが、そもそも授業料は、公立高校より私立高校の方が高い。 ○か×か？

第4問 私立高校の入学金は、公立高校の入学金の約10倍である。 ○か×か？

第5問 私立高校で専願で合格したら、必ずその私立高校に入学しなければいけない。 ○か×か？

第6問 併願で、私立高校と公立高校の両方に合格した場合は、必ず公立高校へ入学しなければいけない。 ○か×か？

第7問 実施日の同じ公立入試の学力検査の問題で、社会・理科は、どの高校も同じ問題である。 ○か×か？

第8問 公立入試の英語の発展問題(c)は、問題文中の指示内容も英語で構成されている。 ○か×か？

第9問 特別選抜、一般選抜とも、全日製の学力検査は5教科で行われる。 ○か×か？

第10問 公立・私立とも、当日の入試点のみで合格・不合格が決定される。 ○か×か？

第11問 公立入試の特別選抜に合格したら、一般選抜は受験できない。 ○か×か？

第12問 英語資格を活用する場合は、英語の入試を受けなくてもよい。 ○か×か？

(解答と解説は裏面)

答え合わせです。

第1問×

→公立高校は様々な普通科、工業科、農業科、商業科等の学科があり、それぞれで校風が違います。また、同じ普通科であっても専門コースをもっている高校もあり、力を入れているところは様々です。自分にあった高校を見つけるには実際に足を運び、話を聴いてくるのが大切です。

第2問○

→大阪の公立高校はすべて男女共学です。

第3問○

→公立高校(全日制)は118,800円、私立高校は学校により異なり、420,000円～774,000円と幅があります。600,000円前後の学校が多いです。

第4問×

→公立高校(全日制)は5,650円、私立高校は200,000円～300,000円と約50倍の違いがあります。

第5問○

第6問○

→私立専願での合格や公立の合格は「第1希望に合格」ということになるので、必ず入学することがルールです。これは「絶対」ですので、間違わないでくださいね。

第7問○

→国・数・英については特別選抜で2種類(A・B)、一般選抜で3種類(A・B・C)があり、各高校が選択することになっていますが、社・理については共通問題です。

第8問○

→ただし、英語のC問題採用校は全公立高校の13%だけです。

第9問○

→もちろん、五中で行っている実力テストと同じ5教科受験の準備をしてください。

第10問×

→公立高校の合否の決定方法については、「当日の学力検査の点数」の他、「調査書の評定」「自己申告書」「調査書の活動・行動の記録」「面接」等、それぞれの学科で決められた方法で点数化し、合否が決定されます。私立高校についても総合的に判断して合否が決定されます。

第11問○

→特別選抜合格者は入学決定となり、一般選抜受験資格は当然ありません。例えば、「とりあえず、箕面東」という受験はできないということです。

第12問×

→点数を見て、良いほうの点数を英語の点数として扱われます。英語を受験しなければ、入試不成立で不合格です。

みなさんに知ってほしいことをまとめておきます。

○公立高校を第一志望にしている人にとっては、私立高校を「すべり止め」だと安易に受け止め、自分が私立高校に進学することを想像もしないで受験校を決める人がいます。公立高校も私立高校も「ここに進学する」ことを考え、高校を選ぶべきです。

○公立高校合格発表日は、進路が決まる日です。

この日に公立高校が不合格になり、「私立高校には行きたくない!」と言ってしまわないようにしましょう。

そのために…

① 私立高校に進学することも考え、進路選択をする。公立高校は、誰もが不合格のリスクを背負っていることを忘れずに。

② 私立高校への進学は考えたくない場合は、公立高校に十分合格できるような学力の育成と受験校の選択が必要となります。この場合、公立高校の受験校選択にはより慎重が必要です。ただし、受験に「絶対」はないことを忘れずに。

※受験を迎える時期には、現実に合格できる高校を選ぶ必要があります。

※例えば倍率が1.4倍(280人受験で200人が合格、80人が不合格という割合)であったとしても、②のように十分合格できるつもりで受験する人も含まれます。いわゆるチャレンジ受験層は、実質倍率よりも合格できる人数は少ないものです。チャレンジ受験は相当の覚悟が求められます。

